

第1回鏡野町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成30年11月22日(木曜日)
午前9時56分開会 午前11時19分開会

2 会 場 中央公民館 第4会議室

3 出席者 町長 山崎 親男
教育長 年岡 康雄
教育長職務代理 石原 昭和
教育委員 定久 正義
教育委員 佐古 庸二
教育委員 小椋 潤二
教育委員 宗川 万喜子

(事務局関係)

総合政策室長 武本 学
学校教育課長 宗森 妙子
生涯学習課長 和田 敦志
総合政策室主幹 草苺 周作

4 協議事項 (1) 小学校の教育環境について
(2) その他

5 会議の経過及び発言

○開会

○山崎町長あいさつ

○年岡教育長あいさつ

○協議事項

議事録署名については、町長と教育長が行うこととなった。

(1) 小学校の教育環境について(意見交換)

武本室長 教育長より現在の教育現場の状況をご説明願います。

年岡教育長 現状と課題につきまして説明とご提案をさせていただきます。

お手元の小学校児童数の推計資料、上齋原小学校PTAからのアンケート集計資料、上齋原小学校PTAと教育委員会との意見交換資料をもって説明させていただきます。

現在上齋原小学校は、1年生がゼロで、2年から6年まで合わせて8人の児

童数であります。家庭数は6家庭であります。今後の動向としまして、31年度以降徐々に減少し、現実的な見込みとしましては平成33年度には児童数4人となり平成34年度には3人の家庭数2となる状況です。

次に富小学校は現在17名でございます。

複式学級の、1クラス4人から6名のクラスで、この流れは平成34年まで続く見込みです。平成35年には入学がゼロになり、全体の児童数が10人を切り、以後年々と8人、7人と児童数が減っていく状況でございます。

次に奥津小学校でございます。本年度は52人。平成31年度には40人台になり、平成34年度以降は30人台になる見込みです。

複式に伴う学級人数の関係ですが、1、2年生では8人以下で1クラス、3、4年生は16人以下で1クラスとなるので、今後奥津小学校も複式学級を視野に入れていかないといけない状況が見込まれます。

次に香北小学校は、平成36年度までは10名以上の児童数を見込んでいますが、平成36年度は1、2年生がいません。平成37年度は1、2、3年生がいない状況なので、全校の児童数が一気に減少する状況に陥る事が見込まれております。

最後に香々美小学校です。現在41人で、以後増えたり減ったりがありますが、平成34年度には30人台になり、平成37年度には27人になる見込みです。

この様に全体的に減少傾向の実態がある中、特に上齋原小学校は、本年度8人の3クラスで、校長、教頭と各担任の5人の教員を配置しておりますが、平成31年度は本年に引き続き入学者がゼロの予定であり、1、2年生がいないため、3、4年で1クラス、5、6年で1クラスの計2クラスとなり、教頭の配置が出来なくなり、校長及びクラス担任の計3名の教員の配置となります。また2クラスになると、県から配置される養護教諭と事務職員が県の配置基準に該当しないため配置されません。全体の生徒数も34年度には1クラスの3人となる状況です。

これらの状況を踏まえ、昨年の9月に上齋原小学校PTAの方々アンケートを行い、その結果を10月28日に教育委員会の方へ頂きました。内容は、上齋原学園への要望、PTA活動の事や、今後の小学校の統合についても触れておりますが、統合についての賛否を問うものではありません。

地域との関わり方など様々なご意見を頂いております。中学校も統合で無くなり、今年から幼稚園も休園になった中で、様々なご意見を保護者の皆さんは書かれております。それを踏まえ、PTAの皆さん及び就学前の保護者の方と教育委員会での意見交換会を10月23日に開催しました。

ご意見や質問の多くは来年以降の児童数等の状況を踏まえて、今の教育環境でいいのかなど、保護者の皆様からの今後の統合の可能性を視野に入れながら話を聞かせて頂いた所でございます。

中学校は統合しましたが、小学校については、町長はじめ、それぞれの地域

にある事を第一に進めて参ったという事でございましたが、学習環境がこのように大きく変化しますと、教育委員会として、子供達のための学習環境を考えなければならない。今後の小学校のありかたについて皆さんとお話頂きたいと思い、委員の皆様にご提案させて頂きました。

中学校につきましては、平成28年4月に4校が統合して以来、本年度が3年目となります。

統合後4校が一つになり、富、上齋原、奥津の子供達が大きくなった環境でどのように育って行くのか、皆様より非常に大きな不安やご心配を頂いておりましたが、不登校の事象も無く、部活動に関しても、富、上齋原、奥津の子供達が素晴らしい活躍をしているという状況もございます。

全体の学習面についても、非常に落ち着いた状況で、学力状況調査も年々成績が上がっている。特に先生方も統合という状況を非常に意識して頂き、しっかりと子供たちに向き合っている事による効果が大きいと思いますし、先生方のご尽力の賜物だと思っております。

新しい鏡野中学校の伝統を作っていると思いますし、日々新たにという考え方の中で、一歩前に進み出す事を教えて頂いている。

結果的に統合の3年間を総括させて頂くと、全体的に良かったと考えております。ただこれからがもっと大切になるので、引き続き頑張るって行かないといけませんし、皆様からのご尽力を引き続き頂きたいと考えております。

武本室長

ありがとうございました。

今、教育長より小学校と中学校の現状をお話し頂きました。特に小学校の児童数が将来少なくなっていく状況を数値的にご提示頂いた所です。これから、少数の小学校をどのようにしていくかという話は避けて通れない所だと思います。

今回は方針を決める所までは行かないのは当然だと思いますが、町長、教育委員様のお話を頂戴しながら、まず第一歩として今日の会議を進めて行きたいと思っております。教育長からの状況をお聞きになった感想や、今後の想いなどがありましたらお話を聞かせて頂きたいと思っております。

山崎町長

この様な実数を見たら、増える努力を行政は進めて行かないといけませんし、様々な取り組みも行っていきます。ただ社会の流れで1つの家庭の持つ子供の数は鏡野町でも全国的にも減っている。鏡野では1.7人で、昔からは落ちている状況で、少子化は現実的な課題の一つであります。少数の小学校の子供の環境も、このアンケートからも分かるように、子供達がストレスを感じて日々過ごしている事が非常に悲しい事だと思います。我々が考えなくてはいけないのは、我々の事ではなく、子供の事を考えなくてはならないので、子供を良い環境で育てたいという事が一番です。ただ小学生の時は親の愛情と、さらに地域の愛情を受けながら育ってもらいたいと思っている所です。

中学校の統合では、皆様方に非常に苦しい思いなどを頂きながら行ったこともありました。中学校統合後、悪い状況は無く、良い状況に向いております。

ただ、小学校の場合は、中学生と違って言葉の発し方が上手くないので、辛い事があったとしても上手く言葉に出し難い事があるのかなと思います。それを数だけ見て統合やむなしとするのは何ともし難い気持ちがあります。

親御さんがそうして欲しいという気持ちがあれば、そうして行くことも必要ですが、私達は子供の声をまだ聞いておりませんので。

石原職務代理 この児童数の話は、先日の臨時教育委員会の時にも出た話ですが、中学校統合の協議の時には、小学校については地域に残して行きたいという意向でありました。ただ我々もこの状況ではどうしたものかと思っております。

教育面では、教員配置の問題もあり、来年度からは特に上齋原については減少してく中で、地域や保護者の皆さん方の意向を聞きながら、例えば奥津小との統合を判断しないとイケないのではないかという気持ちで本日の会議に望んでいる所です。これらの資料や保護者アンケートを見させて頂いて、上齋原以外の奥津、富、香北、香々美についても児童の減少度合いが著しい状況になった時は、近々という言い方が良いのか分かりませんが、統合という形を地域の皆さん方も思われて来る所なのかなと思います。

ただ一発で良いのか判断がつかない。特に上齋原の保護者の皆さんについては、昨年からの協議を重ね、統合やむなしと向かっているのではと思います。ただ、町長の想いもあると思いますし、中学校が統合してまだ3年しか経っていない状況もあるので、ご判断を頂かないと我々教育委員会としても動けない部分があります。

平成31年度の小学校の教員人事についての配置準備が必要です。我々からこうしたいと申すより、急に判断は難しいとは思いますが、町長判断をお願いしたいと思います。

定久委員 資料を、なかなか厳しい数だなと思って見ております。

私達の考え方というのは、石原代理の言われた通りでして、中学校の統合と違い、小学校については教育委員会からは統合の働きかけはしないということですし、中学校もまだ3年しか経っていないという事ですので、町長さんの判断しかないかなと思っております。ただ、このまま放っておくという事は、子供達にとって厳しいのではないかなと思っております。教育は子供たちの為にあると言いつつも、その事が子供達の為に上手く機能するのか。機能しているのか。そこが問題ではないかなと思っております。ある時点では何らかの形で決断しなければならないと思っております。

佐古委員 今の話では、上齋原小学校は近々で判断を早くしなければならないだろうと思います。

統合と言うことになれば、来年と言うことにはならないと思うので、準備期間もいるので、早くても平成32年度に向けて判断をして行かないといけなかなと思います。

他の減少傾向にある学校についても、すぐではないが、何らかの方法を統一的に出すのか、個々の様子を見ながらPTA、地域の方々の意見を聞きながら

出すのか、今考えて行く時期に来ているのかなという思いです。ただ町長さんの話の中に増える努力を町がして行く。しなければならなかったというお話があったが、すぐにできる方法はでないかも知れませんが、上齋原、富も若い方がいなくなって、竹田周辺の地域に人が集まって来て家を建てられている。

町へ出る若い人達の考えも分かるが、逆に田舎の方が良いと言われる方もいらっしゃるので、その辺りを町として空き家を活用して地域に入って来て頂く方への対策に本腰を入れて考えて頂ければ有難いかなと思います。

空き家対策でも、委託業者主体で行っていますが、町職員が町の為に地域を守っていく為にはどうすればいいかを知恵を出し合って進めていく事をお願いしたい。

小椋委員 今まで皆さんが言われた通りですが、もう上齋原が切羽詰まっている状態です。今いる8人のその半分の家庭が上齋原以外から来て暮らしている方です。このような家庭を増やして頂けるような対策をしてもらう事が一番良いが、これはすぐに出来る事でもない。1年2年で増える事でもないで、とりあえず上齋原を何とかしてもらいたい。この結果でその他の地域の参考にもなる。

上齋原の保護者としては、切羽詰まっているので、すぐにでも奥津に行きたいという考えがまとまっている様です。

保護者アンケートの中に、子供が少ないので学校に行きたくないと言っているという意見があるが、もうこれは子供に過大のストレスが溜まっている事が分かるので、早く解消してあげたい。町長にはこの判断を早く出して頂きたい気持ちです。

宗川委員 教育委員会の皆さんの気持ちは話されたと思います。

私は町長さんの挨拶の中で、アメリカの教育より日本の教育の方が想像力に欠けるという点について、私も幼い子供とよく遊びますが、1対1です。そこにもう一人子供が入る事で、喧嘩や笑いも起こる。好奇心や想像力を持って色んなことを学べると思います。大人と子供では、大人は与える事しかできないので、そのヒントを与える事は出来るが、それは大人の目であって現在の少人数の教育環境でもその様な状況になっているのかも知れないし、今後の子供達の育ちに関わって来るのかも知れない。資料にはありませんが、鶴喜小学校も、以前統合しましたし、私の住んでいる地域も同じ様な状況で、一緒に遊びたいけど遊べないとか、子供達が選ぶ事が出来ない状況は、こちらから教育環境を良くしていく事が必要ではないかと思います。

子供達の良い所を伸ばしていく教育環境を準備して、のびのびと好奇心や想像力を持てる鏡野町の教育現場にして頂きたいと思っています。

武本室長 平成31年度の教員配置についてのお話がありましたので、具体的に説明をお願いします。

年岡教育長 上齋原小学校の保護者の皆さんからは奥津への意向は得られていますが、まだ地域の方からのお話はお聞きしておりません。

町長のお話にもありましたが、教育委員会としてもあくまで小学校は地域と共にある学校という形で、地域の方と一緒に子供達を育てて行きたいという事が前提でしたが、このような人数になり2クラスという状況が起きると、教員配置が非常に厳しくなります。

現在奥津小学校は単式の学級で、全ての学年のクラスがある訳で、上齋原の複式は、2年間で学級を学ぶ形になっています。そうしますと、例えば奥津小学校に上齋原小学校の奇数学年の子供達が行った場合は、まだ習っていない状態に入って行かなくてはならない状況が発生しますので、やはり統合という形を地域のご理解を得られて進めていくのであれば、準備段階として1年間は、複式学級を解消した配置をして授業を行い、次の学級に行った時に子供達が困らないような状況を取らなければならない。そのためには1年間は準備期間が必要という事になります。

体制面ですが、統合という事になりますと、統合加配という形で県から1名教員の増員があります。この先生は、統合後の1年間も引き続き統合後の学校にも配置されるという形になります。そのためには岡山県に加配教員の配置を求めて行かなければなりません。来年度から準備に入るなら、12月末までに県に加配教員のお願いをしなければならぬので、早急に方向性を出していかなければならないという事です。

武本室長 ある程度統合という方向性が決まれば、上齋原の複式クラスを統合に向けた単式のクラスに戻して、それぞれの学年に担任が配置されるという事でしょうか。

年岡教育長 そういう考え方でいいですが、基本的に児童数が少数なので、主要科目である算数、理科、国語、社会は単式で授業を行い、その他の図工や音楽、体育などの教科は全体学習として工夫をしながら行う様にします。教科によっては非常勤教諭をお願いして、加配教諭も含め、必要な先生を配置しなければならないと思います。

武本室長 県の加配教員は、12月末までをお願いしないと間に合わないのですか。

年岡教育長 そうです。もし平成32年に統合という形に結論を出して行くなら、そこまでは県の教育事務所へお願いしないといけないという事です。

山崎町長 子供達に過度なストレスを感じさせるというのは本当に我々の胸中も穏やかでないです。

今でも、そうなる前に親御さんが奥津の小学校に通わせる。通わせたいので、地域を出る。と言うような話も聞いている。

年岡教育長 昨年から、奥津小学校に通わせたいのでどうしたらいいか。という案件のお話はありました。ただ学区を定めていますので、学区外の就学は認めておりません。学区外の就学の特例はありますが、特別な事情がある場合に限りです。例えば、いじめがあつて、その学校に行けないなどです。

本年度は、お二人の入学予定でしたが、転出によりそれぞれ町内の小学校に入学されております。この結果、今年の上齋原小の入学は無かったという事に

なりました。来年度も入学該当者はおられますが、転出予定との事ですので、来年度も今の所、入学は無い予定です。保護者の想いは、1名の入学では、行かせられないという気持ちを持たれています。

富地域においても、同様な相談がありますし、同級生がいないのなら別の小学校に行きたいと思っておられる保護者の想いもございます。

保護者の皆さんは、子供の為に地域を出ます。という気持ちがあるという事です。

これまで地域の小学校は地域に残すとの前提では、子供達にとっても望ましくないのではという気持ちです。保護者の方が持たれている課題と、地域の方が今の教育環境がよろしくないという課題はお持ちでないと思います。

地域の小学校は、教育施設だけではなく、防災拠点であるとか、コミュニティの拠点でもあり、学校があるから寄ってくださるとかなどの想いや愛着があるので、地域の皆さんとしっかりお話をしないといけないと思いますが、教育委員会としては、今の子供達の教育環境をどう考えていくかという事になれば、ある程度的人数の中で、集団性とかコミュニケーション能力の向上を含め、できれば単式で学ばせてあげたい。もちろん複式の良い所もありますし、少人数の学校の良い面もございます。

今、地域に学校があることによって逆に若者が流出するという事が起こってしまっている。

物理的に、地域の小学校が無くなると、遠方に通わさなければならない状況がある所と違い、上齋原は国の示すスクールバス通学時間の1時間以内よりも短時間の15分から20分で奥津に行ける距離にあります。低学年にとっても肉体的負担の少ない時間だろうと思っておりますし、できるのであれば、そうした方が子供達にとって良いのではと考えております。何度も言いますが、これは地域の方のご理解が必要です。

数年後には3人になる学校をこのまま残すのは教育上好ましくないのではという気持ちです。

山崎町長

小椋教育委員が言われたように、保護者の想いや気持ちは決まっているようで、アンケートの中にもありましたが、町はこの状況で何もしないのかとありました。何もしないのではなく、できない部分もあります。平成32年に1名入学があるので、複式にしても1人となり厳しい状況になる。平成32年が一つの目安になるかもです。ただ統合ありきの話はだめです。

その後はどうなるのか。休校か廃校か。色々な事もあります。

例えば、全学年が奥津に行くのか、1年生だけ行くのかなど、皆さん方の想いもあると思いますので、考えていかなければならない。この問題は、鏡野町だけでなく全国的な問題で、毎年多くの学校が閉校になっている。

これらの問題も話し合う会議がこの会議ですので、今後も議論していかなくてはならない。

年岡教育長

町長のお考えは分かりました。統合ありきで進める訳ではありませんが、保

護者の方から声が来た以上、教育委員会としても町としても、手をこまねいて放っておく訳にはいきません。保護者のご意見やお気持ちはお聞きしましたので、これに対して地域の方々がどの様に考えられますかと聞きに行つてよろしいでしょうか。

山崎町長 どのような方法があるか。学区を上齋原と奥津を一つにするという考えの中で学校を一つにするとするなら、結果的に学校は一つになるのですが、とらえ方とすれば学区を一つにするという事か。

年岡教育長 考え方とすれば、奥津学区を広げて上齋原地区を入れるという事です。

山崎町長 言葉の言い方にもよりますが、二つの学区を一つにするという事で、学校は奥津の1校とするという事か。

あと考え方とすれば、廃校でなく休校という事ですか。

その年の1年生だけを行かせるのか。

3年生から6年生は今行っている上齋原のままです。

石原職務代理 私の意見としては、奥津と一緒に学ぶのであれば、1年だけでなく全員一緒に行くべきだろうと思います。1年だけであれば、少数の現状と変わらない。

山崎町長 私の想いとしては、今の複式のクラスの子供達を単式の奥津に行かせた場合に学習に支障が起きるのではということ。

石原職務代理 そういう学習面については、教育長が先ほど説明したように、平成32年度に編入または奥津と統合するのであれば、来年度の1年間に複式を解消して、単式の学習が出来る様に先生の配置の体制を取らなくてはならないという事。そうするには、今年の12月末までに県に申し込みをして先生の増員をお願いしなければならないと子供達の学習面の準備が出来ない。

山崎町長 そういう事であれば、町費を投入してでも子供達への学習環境を整えなくてはならないのは当たり前の事です。ただ、それが可能なのか。

石原職務代理 それは県にお願いしないとイケない。

年岡教育長 統合加配という形で、県にお願いしてみなければならない。それでもまだ足りないという事であれば、町費を投入して準備する方法しかない。

今、保護者のお話では、統合やむなしで、奥津に行かせたいという声が多いのですが、地域としてはどうなのか。

保護者から地域の方へ奥津に行かせたいという気持ちは伝えていないので。

山崎町長 それなら、区長の皆さんに、現状と保護者の気持ちや、将来の子供の数の展望などのお話しをしてみないとイケないのでは。

年岡教育長 では、教育委員会として区長会に、現状と保護者の気持ちをお話しさせて頂いて、地域のお考えを聞かせて頂くという事でよろしいでしょうか。

山崎町長 はい。

武本室長 今回のお話で、方向性のある程度出せたと思っています。今後具体的には何をしなければならないのか。また地元や保護者との協議についても教育委員会が窓口となっていくという事でしょうか。

年岡教育長 お任せいただけるという事であれば、教育委員会で話をしたいと思います

が、よろしいでしょうか。

山崎町長 分かりました。

年岡教育長 はい。上齋原小学校については切迫しておりますので、近々に動きますが、将来の鏡野町の小学校のありかたについては、国から小学校における適正配置の手引きも平成27年に出しております。これをベースとして鏡野町としては今後どうあるべきか。どうしていくのかを検討していかないと、今後同じような状況になった時に考えるのではなくて、そろそろ検討に入らないといけない時期に来ているような気がするのですが。

山崎町長 組織としてはそうなります。検討せざるを得ないと思いますが、皆さん方も子供を育てた親でありますので、型にはめ込むというよりは、卑怯な言い方も知れませんが、その時に協議をする方が私はいいのではないかと思います。富も、香北も、あるいは香々美もそうなるとは限らないし、私は地域で子供達を育てる環境は残したいし、残せるものならなるべくそうしたい。

繰り返しですけど我々行政が足りない所があるのか、時代の変化でもあるのか理由はありますが、今の空き家の活用の件もありますし、移住定住についても鏡野町に住みたいという声も多く聞いています。まとめて何組も一変に増えるという事はないですが、少しずつでも増えて行く努力をしていかなければと思っていますし、成果も少しずつ出てきているので、先に決めて待つよりは、その時に協議をして行きたいと思います。

年岡教育長 こうなったらこうするとかの結論を出すのではなくて、こうなったら検討を始める。地域と協議をするなどの方向性を取っておかないと、地域や保護者から声を待つだけではいけないのではと思います。

これからの課題は、地域の若い方が、うちの子だけなら地域を出る。地域の学校に行かないといけないなら地域を出て行きますという声が現実に出てきている。地域に学校があることが地域を発展させるのでは無く、逆に学校があることによって若者が流出する原因を産んでいる事が現実に起きています。そのことを意識して現状を考えていかないと、学校があるから人が残ってくれるとは、今の若者の考え方は違うと思います。

山崎町長 この教育会議が今回で終わりという事ではありませんので、今後も引き続きこの問題を議題に取り上げて頂き協議をして行くという事でお願いしたいと思います。

石原職務代理 今、教育長が言われたとおり小学校のありかたについては今後協議を重ねて行くという事でお願いしたいのとは別に、今の状況と将来の推移についての話を各地域の方には伝えて行く必要があるのではと思います。地域の方に知って頂かないと、その時に何も事前に伝えずに話をするのでは無く、状況などは事前に伝えながら将来に向けて話をしていく方が良いのではと思います。地域からの声を待つだけで良いのかなという気もするので、せめて状況や推移はお伝えした方がと思います。

山崎町長 私としては、地域からの声を待ちたいという気持ちです。

石原職務代理 何も情報を伝えないという事はいかがなものかと。

山崎町長 それは、現状をお伝えする必要はあると思います。

ただ、地域を守っていく子供への教育は、地域の方も積極的に頑張って頂かないと行政だけでは出来ない。親は子供達に出て行ってもいいよ。帰って来なくてもいいよと。もちろん地域が良くなると子供も帰って来ないし、来たくても帰れないので。皆で子供を呼び返すという気持ちでお願いしたい。

小椋委員 それは難しいですよ。

合併して役場も無くなる。振興センターも職員が2、3人。農協も無くなる。森林組合も統合する。だんだんと人が少なくなった状態で地域を良くするのはかなり難しい。

山崎町長 その環境になったのは事実ですが、1つ例を挙げるなら、奥津にコンビニが出来ました。出来た事によって周りの環境が随分変わりました。コンビニが出来たから帰って寄ろうとか。人の流れが変わって来ているし、喫茶店や食堂も出来ている。地域の方が何かを変えることによって、だんだんと環境が変わってきて大げさですが、回帰の要因が出来ている。

上齋原にはトレッキングコースも出来ます。新たな岡山県の事業として観光地が出来るなど、若い方が帰ってみたい、仕事があれば帰りたいと。

昨日、緑のふるさと協力隊の中四国地方や九州の方とお話する機会がありましたが、その方達は東京などの都市部からそれぞれ地方の地域に行き暮らしをされて活動されていますので、その方達にそのままそこに住んで頂けるように勧めて参りたい。その為には、それぞれの地域に小学校や病院もありますと言いたい。

佐古委員 先日、教育委員会で研修に行かせて頂きました。ある過疎化の小学校に行きましたが、そこは町と教育委員会で山村留学を実施されていました。山村留学を体験した方が、そこに帰って来て、結婚されて生活されているという事を聞きました。そういった事も参考にしながら考えていく事も必要だと思います。

山崎町長 事業を進める事が必要で、多くは難しいかも知れないが継続して来てもらうことが大事だと思います。それが地域の雇用や発展に繋がっていけばと思いますし、コンビニの例を見ても、一つのヒントになるかと思います。

武本室長 ありがとうございます。

今日の議題はこれだけですが、その他何かございますか。

山崎町長 一つだけ。

夢づくり事業です。夢づくり事業について、先ほども話がありましたが、子供達に想像力とか好奇心というのを教育委員会と行政の想いを子供達にぶつけられる様な夢づくり事業の題目を考えて頂きたいという事です。

よろしく。

年岡教育長 今、学校の希望などもお聞きしている所です。子供達に何を伝えたらいいかを学校サイドにも確認しております。

今は、町長の想いのような創大な物になっていないのが現状なので、経費も

掛けても良いと聞いておりますので、画期的な物をできればと思っております。中学生が対象の講演なので、アスリートが良いのか、何がいいのか検討しております。

山崎町長 今、同じ中学生も日本中で活躍しているので、同じ世代でもいいと思いますし、今行わないと卒業する子供もいるので早く、とにかく夢づくり事業を毎年よろしく願いしたい。

武本室長 ありがとうございます。
一つの方向性については話し合いが出来たのではと思います。今後の具体的な進め方については、教育委員会の中で話をさせていただき、また総合教育会議の中でもご意見を頂戴しながら慎重に進めて行かなければならないと思っております。今後もよろしく願いしたいと思っております。
本日はありがとうございました。